政策評価シート【総括票】

施策の柱	３－４　多彩な交流・連携による新たな価値を創る

基本方針	国際化の推進や、大学・企業等の連携など、多彩な交流・連携によるまちづくりを進めます。

担当局（区）	総務局　　総合政策局　　経済農政局

評価区分	C	政策の目的達成に向け順調に成果が現われている

【評価の理由・説明】
　国際化の推進についてのうち、「千葉市を住みよいと感じる外国人市民の割合」は中間目標値を超えているが、「市の国際的なイメージが向上している」や「国際会議開催件数」については、中間目標値には届かず微増であり、現状では、本市に関するさまざまな情報や事業内容の国内外への発信力が不足していることを表している。
　大学・企業等との連携については、市と大学・企業だけでなく、市民と大学との関わりも順調に増加しており、様々な主体の連携によるまちづくりの推進が目標通りに進んでいることがうかがえる。
　大学との共同研究事業や企業との連携協定等が本市の行政課題解決に寄与するとともに、大学が地域志向にシフトする中で、市民にとって身近な知的資源として活用されてきているものと考えられる。

【今後の取組みの方向性】
　国際化の推進については、外国人市民と日本人市民相互の理解を深めていくことが重要であり、そのためには、さらなる交流機会の創出や積極的な情報提供等を行っていく。
　また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、市民の関心の高まりや、来日する外国人旅行者の増加が見込まれる中、本市の国際的なイメージを向上させるためには、外国人旅行者の受け入れや外資系企業の進出、国際的なイベントの開催等を推進していく必要があり、あらゆる機会を捉えて市独自の情報発信やメディアを使ったPR等を行う。他にも、ボランティアの活躍の場の増大が予想されることから、これを機に、国際交流ボランティアの周知、拡充を図る。 国際会議等MICEの誘致についても、近年競争が激しくなってきているため、会議の助成や支援制度の充実だけでなく、都市の魅力を高めるための効果的なブランディングを行っていく。
　大学・企業等との連携については、社会情勢の変化に伴い行政課題が多様化していく中、様々な主体と積極的に連携しまちづくりを進めていく。また、大学が市民に生きがいやキャリアアップ、地域貢献の手段等を提供し、市民もまちづくりに参加できる取組みを一層推進していく。

評価区分の基準（指標の達成状況の平均点数）
　A：4．5点以上、 B：3．0点以上4．5点未満、 C：1．5点以上3．0点未満、 D：0点以上1．5点未満、 E：0点未満

生活実感・行動指標

（%）

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
92	外国人市民と日本人市民の互いの理解が進んでいる	12.5	20.0	25.0	30.0	12.9			△	1
148	市の国際的なイメージが向上している	19.3	25.0	30.0	35.0	21.2			△	1
95	この1年間に、地域の大学と関わる機会があった	6.5	8.0	9.0	10.0	7.9			○	3

客観指標

指標No.	指標名（単位）	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
93	国際交流ボランティア斡旋件数(件)	541	650	850	1000	573			△	1
94	千葉市を住みよいと感じる外国人市民の割合(%)	63.6	65.0	70.0	75.0	70.1			◎	5
149	国際会議開催件数(件/年)	22	50	60	70	30			△	1
96	市と大学が連携して実施した取組数(事業)	51	80	110	140	162			◎	5
97	大学・企業等との連携協定数(件)	7	8	10	12	12			◎	5

平均点	2.8

施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況 達成	進捗状況 未達成	主な事業の進捗状況（事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など）
３－４－１	31	15	本市を住みよいと感じる外国人市民は多いものの、対外的には国際的イメージが弱いことから、積極的な情報発信を進めていく必要があ
３－４－２	11	2	まちづくりの担い手として、様々な主体への期待が高まっており、「市と大学が連携して実施した取組数」と「大学・企業との連携協定数」は、連携が進んでいる。